

## 第6章 関連文化財群に関する事項

---

### 第1節 関連文化財群について

---

#### 1. 関連文化財群設定の意義

---

文化財は、これまで主に個々の文化財の把握・保存・活用等が行われてきましたが、相互に関連を持つ文化財を一体的に捉えることにより新たな価値を見出し、周辺環境とあわせて保存・活用に取り組むことが必要であるとする考え方が示されています。

本地域計画では、個々の文化財の保存・活用の取組みを引き続き進め、それと並行して、歴史文化を基盤とした、市民にもわかりやすいテーマにより、指定・未指定を含めた複数の文化財を関連文化財群として捉え、まとまりをもって文化財の保存・活用を進めることを目指します。

#### 2. 設定の考え方

---

本市の概要及び歴史文化の概要、調査等で把握された文化財等から、市域の歴史文化を俯瞰的に捉えることができるテーマにより関連文化財群を設定します。中には市外所在の文化財と一体となって捉えることで理解しやすくなるテーマがあり、本地域計画では西宮市外に広がるものと西宮市域を中心としたものとして整理しました。

#### 3. 関連文化財群

---

本地域計画で関連文化財群として取り上げたものは、次のとおりです。

##### 1 市外まで広がる広域のテーマ

---

- (1) 西宮と酒：伊丹諸白と灘の生一本～下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷～
- (2) 公儀普請・徳川氏の大坂城再築と石垣石丁場跡
- (3) 幕末の騒乱、大阪湾防備と西宮砲台
- (4) えびすと西宮

##### 2 市域を中心とするテーマ

---

- (1) 千年のまち、にしのみや
- (2) にしのみやの道 宿駅生瀬
- (3) 西宮の近代建築と文教住宅都市
- (4) 「甲子園」は枝川・申川から生まれた
- (5) 名塩御坊と名塩紙
- (6) 古墳—西宮の古代前史を知る

## 西宮を読み解く10の関連文化財群のテーマとストーリー

### 市外まで広がる広域のテーマ

### 市域を中心とするテーマ

#### 1. 行き交うひとともの

##### えびすと西宮

「えびす」の総本社として知られる西宮神社。江戸時代には傀儡師の活動や神像札の配布、房総半島への漁民出漁などによりえびす信仰が西宮から全国へ広がっていきました。

##### 千年のまち、にしのみや

平安時代から廣田神社・西宮神社に由来する「にしのみや」。京・大坂と西国を結ぶ交通の要衝である西宮は、千年続く、人とものが行き交う場所でした。

##### にしのみやの道 宿駅生瀬

丹波、播磨と摂津を結ぶ交通の要衝に発達した、街道の宿場町「生瀬」。鉄道開通により姿を変えつつも、伝承・古文書・町並みなどの中に歴史の面影を感じることができま

#### 2. ものづくり

##### 「西宮と酒」 【日本遺産】

伊丹諸白と灘の生一本  
～下り酒が生んだ銘醸地、  
伊丹と灘五郷～

江戸時代、伊丹・西宮・灘の酒造家たちは優れた技術、良質な米、酒輸送専用の「樽廻船」によって「下り酒」と賞賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダードを築きました。

##### 名塩御坊と名塩紙

蓮如が創建した教行寺の眼下に広がる名塩地域は、江戸時代「名塩千軒」と称されるほど、紙の一大産地でした。製紙業による経済的発展は、江戸時代後期の名塩蘭学塾の開設につながりました。

#### 3. 近代化の足跡

##### 西宮の近代建築と 文教住宅都市

明治以降、大阪神戸間に鉄道が開通し、西宮周辺で富裕層向けの「郊外生活」の提供が盛んとなりました。娯楽や優良住宅地が開発され、そこで生まれた文化は、現在の「西宮らしさ」の基盤として受け継がれています。

#### 4. 六甲山と大阪湾をめぐる石の文化

##### 公儀普請・ 徳川氏の大坂城再築と 石垣石丁場跡

江戸幕府による大坂城再築のため、各大名が瀬戸内から石垣用の石を切り出しました。西宮市内の石丁場跡から運び出された石も、今の大阪城の石垣に見ることができます。

##### 古墳 西宮の古代前史を知る

市内には多数の古墳の所在が知られ、多くは巨石が用いられた「横穴式石室墳」です。前方後円墳の所在も資料から確認されます。木簡等多数の木製品が出土した高畑遺跡など古代の様相を今に伝えています。

##### 「甲子園」は枝川・申川 から生まれた

明治時代後半、武庫川左岸の鳴尾地域に開設された遊園地や競馬場は、郊外生活文化の嚆矢となりました。武庫川支流の申川・枝川が治水対策で廃川となり、その跡地に、甲子園球場等の施設や住宅地が作られ、現在の「甲子園」につながっています。

##### 幕末の騒乱、 大阪湾防備と西宮砲台

幕末、外国船来航に備えるため大阪湾防備が整えられました。各地に御台場の建設が進められました。西宮砲台もその一つで、石堡塔と土塁、築造に関する歴史資料を伝えています。

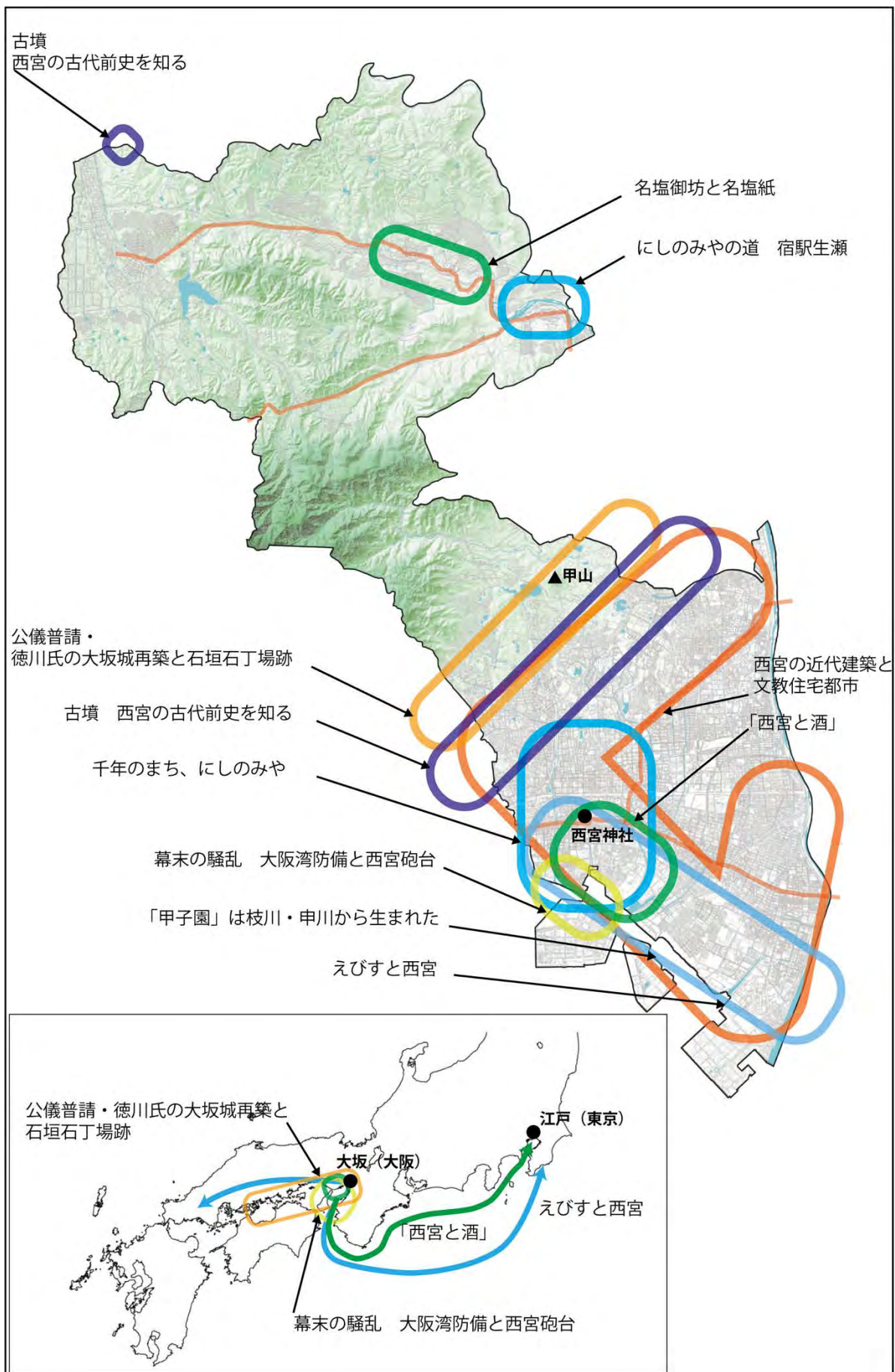


図 47 関連文化財群の構成

## 第2節 各関連文化財群について

本節では各関連文化財の概要、保存・活用の課題と方針、保存・活用に関する措置、実施主体、構成する文化財を記載します。（表中の実施主体、財源についての考え方は第5章を参照のこと。④措置と関連する第5章第2節の措置の項目番号を記載しています。）

### 1. 市外にまで広がる広域のテーマ

#### (1) 西宮と酒：伊丹諸白と灘の生一本～下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷～

(令和2年度認定日本遺産)

①概要											
<p>江戸時代、伊丹・西宮・灘の酒造家たちは、優れた技術、良質な米と水、酒輸送専用の樽廻船によって「下り酒」と賞賛された上質の酒を江戸へ届け、清酒のスタンダードを築きました。酒造家たちの技術革新への情熱は、伝統ある酒蔵としての矜持と進取の気風を生み、「阪神間」の文化を育みました。六甲山の風土と人に恵まれたこの地では、水を守る人、米を育てる人、祭りに集う人、蔵開きを楽しむ人が共にあり、400年の伝統と革新の清酒が造られています。</p> <p>日本遺産構成自治体：西宮市、伊丹市、神戸市、芦屋市、尼崎市 関係箇所：東京（下り酒）</p>											
②保存・活用の課題											
<p>日本遺産に認定された日本酒をテーマとしたストーリーの周知が必要です。 構成文化財に訪れやすくなるための環境整備が必要です。 日本酒に関連する食文化についての調査と普及事業が必要です。</p>											
③保存・活用の方針											
<p>日本遺産として認定されたストーリーと構成文化財を核として、市内の酒造関連文化財を一体的に把握し、保存・活用を推進します。</p>											
④措置											
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降	
日本遺産講座等事業の実施（日本遺産）	6-3										
ツアー等の企画等（日本遺産）	6-3										
散策ルートの設定	6-3										
案内ソールの作成・提供	6-3										
構成文化財等の連携促進	6-3									継続	
日本酒に関連する食文化の調査	1-1										
日本酒関連事業等との連携	6-3									継続	
実施主体	市民等、民間団体（協会等）、専門機関（大学・博物館等）、行政										
⑤構成する文化財											
<p>建造物：日辰馬喜十郎住宅〔県・市指定〕／今津灯台附立札〔市指定〕／西宮神社嘉永橋・瑞寶橋〔国登録〕／旧多間ビル</p> <p>美術工芸品：絹本着色安倍仲麻呂明州望月円通大師吳門隱棲図〔国重文〕（辰馬考古資料館）</p> <p>歴史資料：灘酒造業関係史料群（関西学院大学図書館）／樽廻船関係史料群（西宮市立郷土資料館）</p> <p>無形文化財：伝統的な酒造り〔国登録〕</p> <p>民俗文化財：灘の酒造用具一式（附 酒造用桶・樽づくり道具一式）〔県市指定〕／兵庫県酒造習俗〔国記録選択〕／灘五郷・酒造り唄〔国記録選択〕</p>											

記念物等 : 宮水発祥之地碑・宮水井・宮水庭園／當舎屋金兵衛港湾修築記念碑／辰馬本家酒造本蔵釜場遺構  
 博物館 : (公財) 白鹿酒造記念博物館／(公財) 辰馬考古資料館／西宮市立郷土資料館

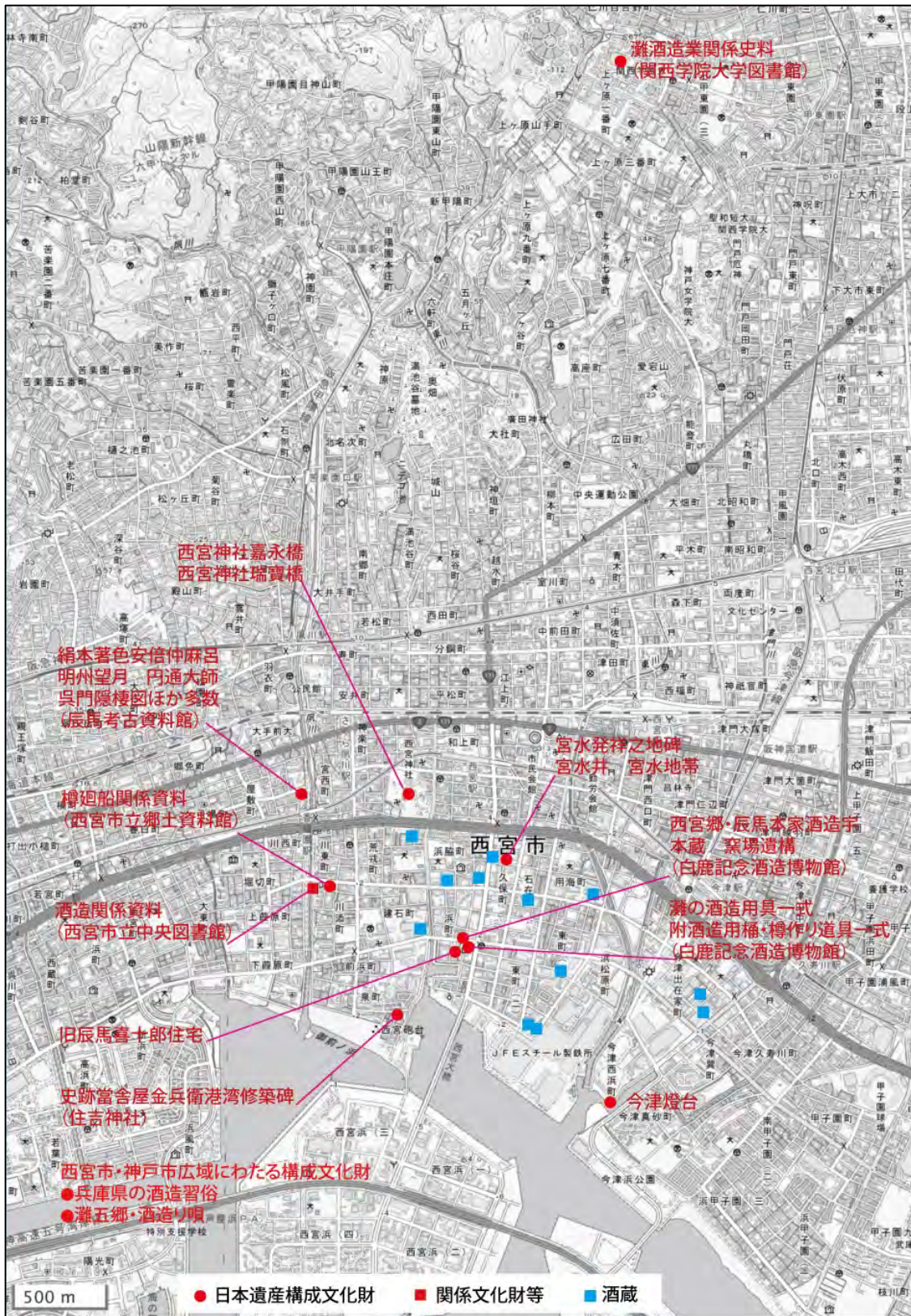


図 48 西宮と酒関係箇所

## (2) 公儀普請・徳川氏の大坂城再築と石垣石丁場跡

①概要											
<p>元和元年（1615）大坂夏の陣で豊臣氏は滅亡しました（元和優武）。この時、豊臣秀吉が築成した大坂城も焼け落ちました。幕府は、元和5年（1619）に大坂藩を廃して直轄領とし、翌元和6年（1620）に將軍徳川秀忠は大坂城の再築を命じ、寛永6年（1629）にいわゆる「徳川大坂城」が完成しました。この大坂城は、慶長11年（1606）に成っていた江戸城とともに將軍が城主である城で、幕府直轄の「公儀普請」により再築されました。大坂城は天守をはじめとしてほとんどの建物は失われていますが、今に残る大きな石垣は建設当時の壮麗な城郭を偲ばせます。この石垣には、花崗岩を産出する瀬戸内海一帯の石丁場の石材が使用されていて、石材の切り出し、運搬、石垣の築成までの「石垣普請」には、幕府から命じられた西国大名が携わりました。大坂城の石垣は、精緻に規格化・整形された良質の花崗岩の巨石を石切丁場から大坂城の石積み丁場へ運び、巨大な石垣を短期間で積み上げていく高度な石垣石積み技術の頂点に位置するもので、国史跡となっている香川県小豆島と本市の石切丁場跡とともに瀬戸内地方に広く分布する石切丁場跡及び石積み丁場である特別史跡大坂城跡を合わせて、近世初頭における巨大石垣建設の技術と文化を今日に伝えています。</p> <p>展開する地域：大阪市、香川県小豆島町、ほか瀬戸内地方の花崗岩の石切丁場跡群</p>											
②保存・活用の課題											
<p>徳川大坂城の石垣石丁場跡の総合的調査や史跡の追加指定に向けた調査研究が必要です。</p> <p>石垣石丁場跡等の保存・活用が必要です。</p> <p>石垣石丁場跡と市内に点在する刻印石・調整石についての周知が必要です。</p>											
③保存・活用の方針											
<p>東六甲山麓に広がる石垣石丁場跡についての調査を進めます。</p> <p>石垣石丁場跡の整備を進めます。</p> <p>国史跡を核とした石垣石丁場跡の周知を進めます。</p>											
④措 置											
項 目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降	
大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡総合調査	1-4										
大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡詳細調査	1-3										
現地公開等の実施	5-1										継続
大坂城石垣石丁場関係講座・見学会等普及事業	3-3										継続
大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡整備（仮）	3-6										
甲山関連イベントとの連携	6-1・6-2										継続
実施主体	民間団体（協議会等）、専門機関（大学・博物館等）、行政										
⑤構成する文化財											
<p>記念物：大坂城跡〔国特別〕・大坂城石垣石丁場跡東六甲石丁場跡〔国指定〕</p> <p>徳川大阪城東六甲採石場（周知の埋蔵文化財包蔵地）</p> <p>市内に散在する花崗岩加工石（刻印石、矢穴石、調整石）</p>											

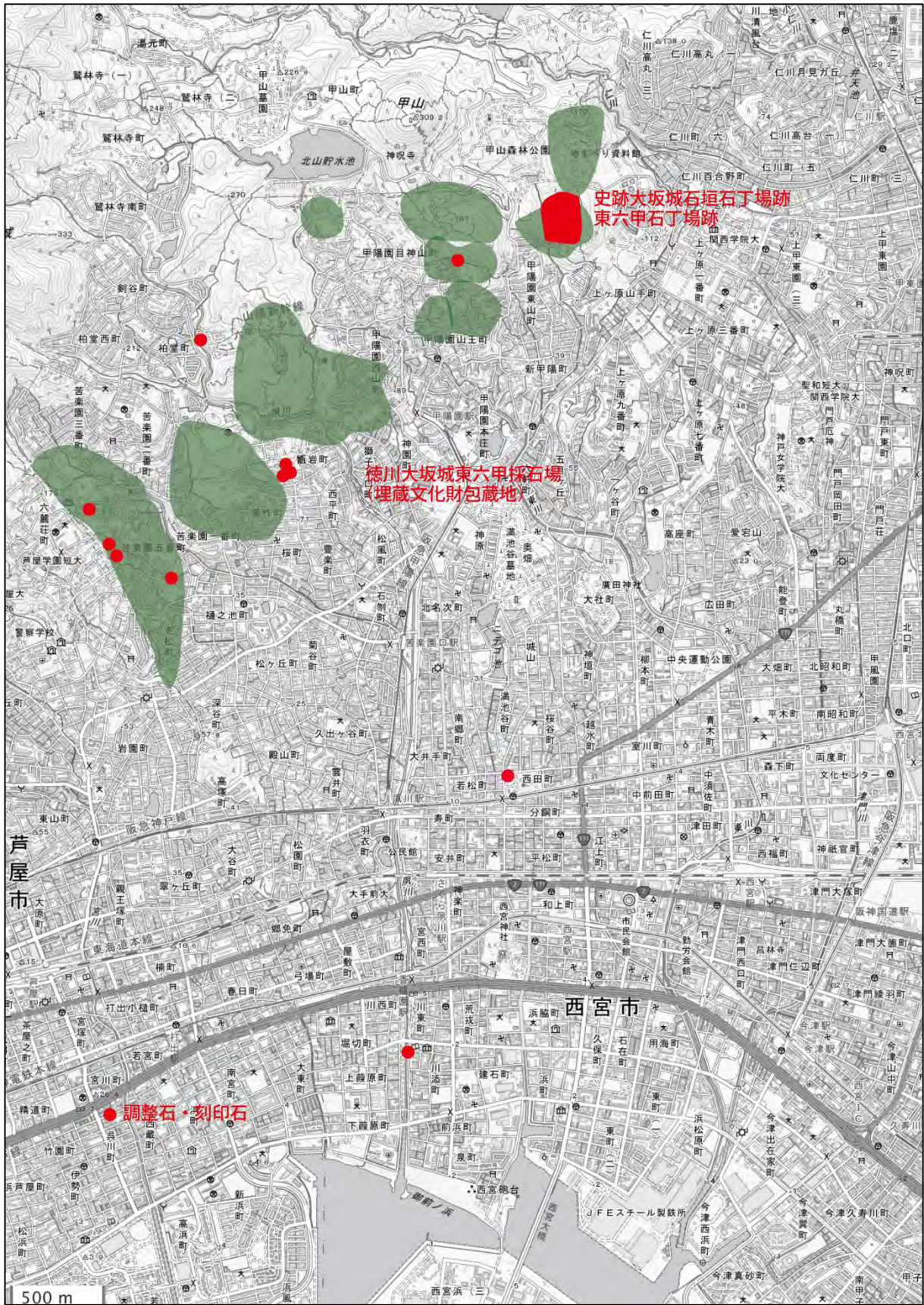


図 49 公儀普請・徳川氏の大坂城再築と石垣石丁場跡関係箇所

### (3) 幕末の騒乱、大阪湾防備と西宮砲台

①概要										
<p>江戸幕府が開かれてから250年。いわゆる幕藩体制は、経済や外交、軍事の側面から形となって変容、崩壊していきませんが、それらと呼応するように市井の人びとの群衆運動が活発になりました。西宮砲台〔国指定〕は、天皇の居所京都への水上経路・淀川へつながる大阪湾を守る「大阪湾防備」の一環として、軍艦奉行勝海舟の建議により建造された石堡塔付き台場4基のうちの1基です。各所に伝わる建造記録や遺構などから知られる、西宮砲台と同様の設計による台場は、幕府直轄領兵庫（津）の東西にあたる神戸市の湊川砲台（滅失）と和田岬砲台〔国指定〕、同じく直轄領西宮（港）の東西に位置する今津砲台（滅失）です。また、大阪湾沿岸には、舞子砲台や堺砲台、淀川沿いの楠葉砲台などが遺構として現存しており、当時の朝廷、幕府、薩長などの諸勢力が覇権を争って内戦の危機のなかで建造された軍事的な記念物として、我が国の近世史・近代史を語る上で欠かせないものとなっています。また、政治・軍事上の混乱と相前後して波状的に発生した人びとの群衆行動に、おかげ参り、おかげ踊り、ええじゃないか、などがありますが、「越木岩神社のおかげ踊り図絵馬」は天保2年（1831）に盛行したおかげ踊りを神社に奉納の様子を描写した絵馬で、歴史的な意義を有する文化財です。</p> <p>関連する地域：神戸市、芦屋市、尼崎市、明石市、淡路市、南淡路市、大阪府大阪市、堺市など</p>										
②保存・活用の課題										
<p>西宮砲台と関係する砲台・台場がつくられた時代背景等について普及啓発が必要です。</p> <p>西宮砲台及び今津砲台等にかかる調査が必要です。</p> <p>国指定史跡西宮砲台の追加指定と整備が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>西宮砲台とを核として、幕末につくられた砲台・台場に関する普及啓発を進めます。</p> <p>関連する文化財の保存・活用を進めます。</p> <p>西宮砲台の整備を進めます。</p>										
④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降
西宮砲台史跡指定100周年記念事業	3-4									
西宮砲台関連資料の調査	1-3									
史跡西宮砲台の詳細調査と追加指定	1-3・2-4									
大阪湾沿岸の砲台関係講座・見学会等普及事業	5-3									継続
史跡西宮砲台整備（用地取得）	3-6									
史跡西宮砲台整備（仮整備）	3-6									
西宮砲台保存管理計画改定	2-2									
実施主体	民間団体（協議会等）、専門機関（大学・博物館等）、行政									
⑤構成する文化財										
<p>古文書：西宮今津御台場建造関係文書／岡本家文書〔市指定〕</p> <p>民俗文化財：越木岩神社のおかげ踊り図絵馬〔市指定〕</p> <p>記念物：西宮砲台〔国指定〕／今津砲台跡／御前浜（名勝地）／西国街道（遺跡）</p>										



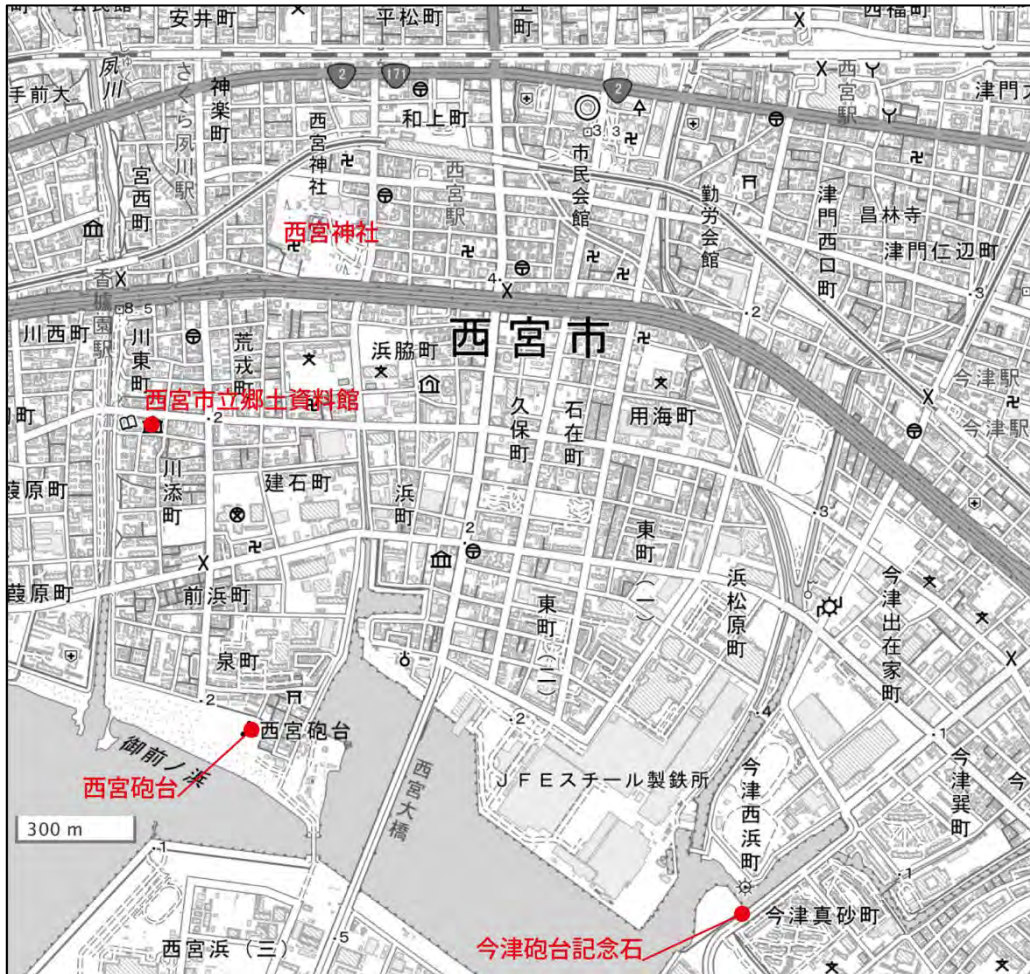


図 50 大阪湾防備と西宮砲台関係箇所 (西宮)

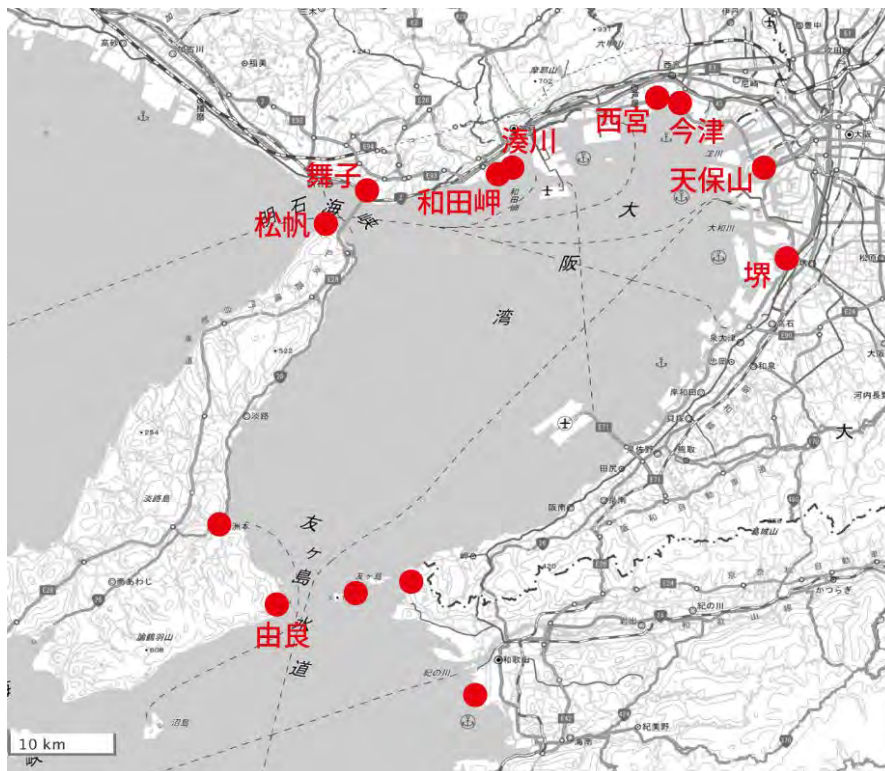


図 51 大阪湾防備と西宮砲台関係箇所

#### (4) えびすと西宮

##### ①概要

私たちの身近なところで「えびす」を見かけることがあります。七福神の1柱に数えられるえびす神は商売繁盛・豊漁などのご利益があるとされ、全国のえびす神社の総本社「西宮神社」では、毎年正月10日の十日戎に福を求め大勢の参詣者が訪れます。当日早朝に行われる開門神事と福男選び神事は毎年ニュースとなり全国的な風物詩となっています。

西宮神社には、平安時代末、鳴尾の漁師が海から引き上げて祀っていた「えべっさん」を託宣により、御輿屋伝承地を経て現在の社地に祀った、という鎮座伝承があります。また、もとは広田神社の別宮である南宮の近くに戎神を別に祀った神社に起源がある、ともいわれます。西宮えびすが今日のように全国に広まったのは、室町時代以降に西宮の散所村(現・西宮市産所町)に住んでいた人形操りの集団が、えびす様のご神徳を人形操りに託して全国を廻った事が大きな要因の一つと考えられています。この人形操り達は、江戸時代になると西宮を離れ淡路島に移り、淡路島の人形浄瑠璃や大阪の文楽へとつながっていったと言われています。人形操り等の神、百太夫神が祀られた百太夫社が境内にあります。また、江戸時代になると西宮神社が神像札(おみえ札)の頒布をする権利を幕府から認められ、全国に広く配布され、房総半島に出漁した西宮の漁民の活動などもあり、えびす信仰が広がっていきました。

##### ②保存・活用の課題

えびすと西宮に関する資料調査が必要です。  
西宮神社等の文化財の保存修理が必要です。

##### ③保存・活用の方針

えびすと西宮に関連する文化財調査を実施し、関連する文化財の保存・活用を進めます。

##### ④措置

項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降
西宮神社表大門・大練塀保存修理	2-3									
えびす関係資料の調査	1-4・5-3									
ユニークベニュー等の実施促進	6-1									継続
実施主体	民間団体、専門機関、行政									

##### ⑤構成する文化財

有形文化財：西宮神社表大門・大練塀 [国重文]・嘉永橋・瑞寶橋 [国登録]・銅鐘 [市指定] (西宮神社)  
御社用日記 [県・市指定] (西宮神社) / 広西両宮絵図 (広田神社) / 摂津名所図会

無形文化財：文楽 [国重文]

民俗文化財：淡路人形浄瑠璃 [国重無民]

記念物：西宮神社 / 傀儡師古跡 / 西宮神社社叢 [県指定] / 百太夫社 / 御輿屋伝承地 / 全国のえびす社など



図 52 御輿屋伝承地



図 53 西宮傀儡師  
『摂津名所図会』



図 54 百太夫社前で披露される  
人形舞



図 55 えびすと西宮関係箇所

## 2. 市域を中心とするテーマ

### (1) 千年のまち、にしのみや

①概要										
<p>西宮神社には、平安時代末、鳴尾の漁師が海から引き上げて祀っていた「えべっさん」を託宣により、御輿屋伝承地を経て現在の社地に祀った、という鎮座伝承があります。また、もとは広田神社の別宮である南宮の近くに戎神を別に祀った神社に起源がある、ともいい、江戸時代以前には広田神社と一体の管理運営形態で神職は両社を兼帯していました。広田社は、平安時代末にしばしば開催された歌合せの舞台になりますが、ここでは広田社が「西宮」と称されることもあり、御手洗川を介して南北に位置する広田神社（広田社）と西宮神社（戎社）とは関連が強い神社でした。</p> <p>近世の西国街道（脇往還山崎通）は京から淀川右岸を下り、旧西宮町東端「角之橋」で、大坂から尼崎を経て西に向かう中国街道と合流して、西宮神社表大門（赤門）に突き当たります。西国街道は、西宮神社を南に迂回し、西国へ向かいます。西宮神社からこの本町通りに沿った東西約800m南北約250mの細長い場所に、旧西宮町（西宮本町遺跡）があります。東西に細長い遺跡は、標高差1～2mの高まりが細長く連なった砂州上に立地し、中国街道はこの砂州の最高所を選ぶように走っています。</p> <p>西宮神社社頭遺跡は、平安時代末から中世～近代へと継続された集落跡で、出土遺物の年代と出土地点から、平安時代末に西宮神社門前付近に始まり、その後、砂州が東へ発達するにしたがって集落も東に拡大したことがわかります。遺物には輸入陶磁器が少なからず含まれていることから、旧西宮町は経済都市としての側面が強かったと考えられます。</p> <p>西宮神社社頭遺跡よりもさらに時代が古く、奈良時代・平安時代の官衙跡、古墳時代の大規模集落跡として、東方約2kmの津門大塚町遺跡やその北方の高畑町遺跡があり、西宮南部地域の拠点集落となる大規模遺跡が移動しながら現在の西宮市街の骨格を形成していったと見ることもでき、先の西宮戎神社の鎮座伝承と合わせて、「旧西宮町」の形成史として興味深いものとなっています。</p>										
②保存・活用の課題										
<p>にしのみやの歴史を把握するための調査（埋蔵文化財調査、歴史資料調査等）・研究が必要です。</p> <p>関係する文化財の指定等による保護の推進が必要です。</p> <p>市民等に向けて普及啓発が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>約千年つづく、にしのみやのまちについて、埋蔵文化財調査、文献等調査、など総合的な調査を推進します。</p> <p>にしのみやのまちの歴史を現在に伝えるための普及啓発事業を進めます。</p>										
④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降
西宮神社社頭遺跡・本町遺跡等発掘調査	1-2									継続
出土遺物等保存処理及び詳細調査	1-3・2-3									
西宮神社本殿の指定等に向けた取組	2-4									
普及用資料（マップ等）の作成	3-2									
実施主体	民間団体、専門機関、行政									
⑤構成する文化財										
<p>建造物：西宮神社表大門・同大練塀 [国重文] / 西宮神社本殿及び境内社殿等 / 西宮神社嘉永橋・瑞寶橋 [国登録]</p> <p>美術工芸品：御社用日記 [県・市指定]（西宮神社） / 桜戸雑話 [市指定]（個人） / 西宮神社銅鐘 [市指定] / 茂松寺虎関前鐘画像 [市指定・絵画] / 海清寺無因宗因画像 [市指定] / 剣珠（広田神社）</p>										

記念物 : 西宮神社／広田神社／六湛寺跡及び海清寺／越水城跡／武庫郡役所跡 / 御輿屋伝承地／西国街道・中国街道／角之橋／傀儡師古跡／西宮神社社叢 [県指定] / 海清寺大クス [県指定] / クスノキ [市指定] / 西宮神社社頭遺跡 (西宮本町遺跡) (埋蔵文化財包蔵地)

博物館 : 西宮市立郷土資料館 / (公財) 白鹿記念酒造博物館 / (公財) 辰馬考古資料館

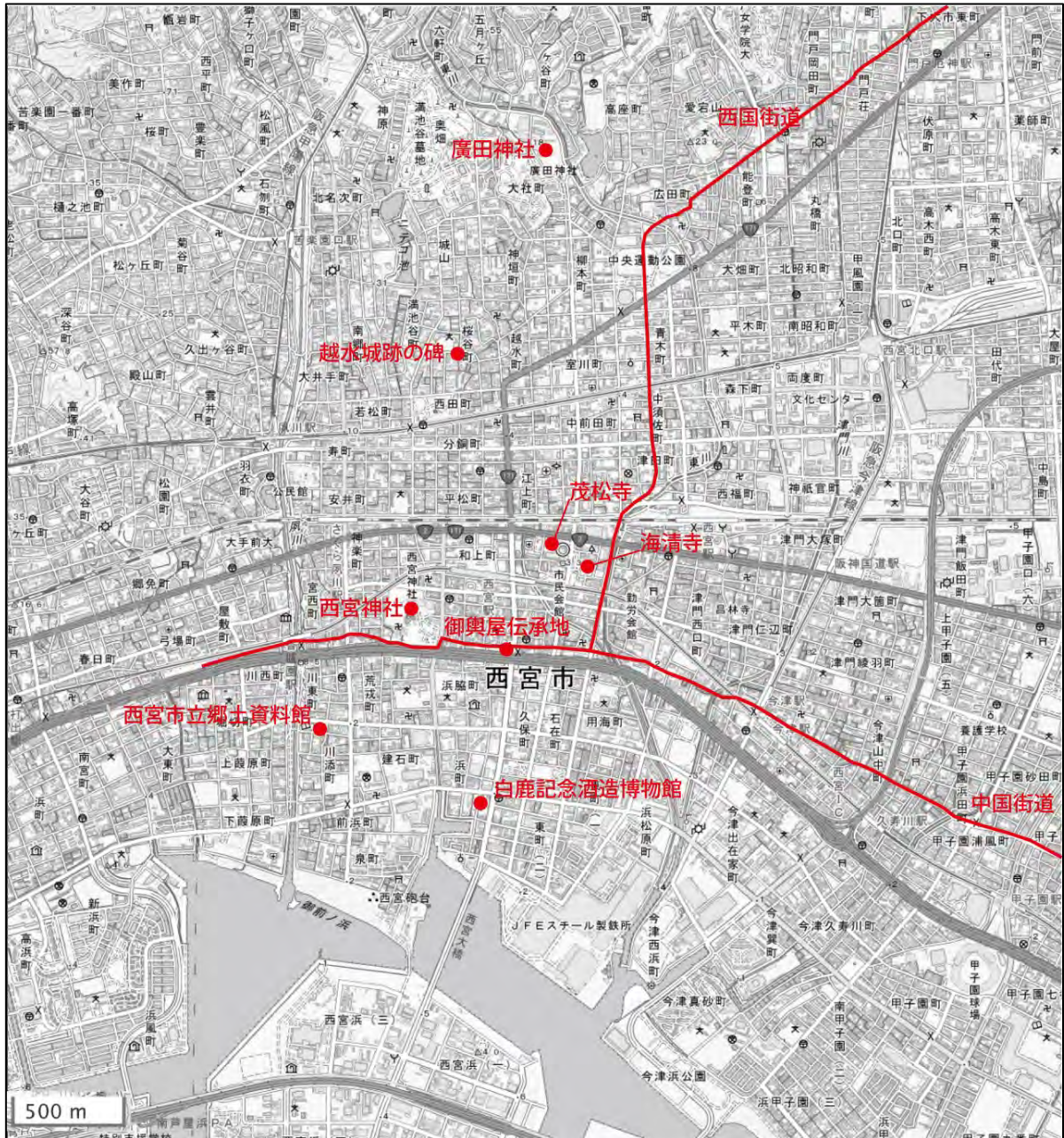


図 56 千年のまち、にしのみや関係箇所

## (2) にしのみやの道 宿駅生瀬

①概要										
<p>町の中心を貫く街道を核に発達した、道の町、生瀬。その起源は鎌倉時代の初め、平家の残党が武庫川に面した地に成した小集落であったと、町の人びとは語り継いでいます。彼らは有馬入湯に向かう途上の証空善恵に導かれ、武庫川に橋を架けて旅人の助けとなり、その志を受けて渡世するようになったといわれます。証空はこの地に浄橋寺を創建し、七堂伽藍を整えました。数度の火災に遭いながらも、勅願寺として信仰を集め、市内有数の指定等文化財の所在地として、多彩で豊富な文化財を伝えています。現在は地域の人びとに守られ、浄橋寺自衛消防隊による消防訓練は冬の恒例となっています。浄橋寺の文化財はまた、宿駅としての生瀬の歴史を伝えています。有馬街道の要衝であった生瀬は、江戸幕府の公用を担う宿駅に指定され、継立の人馬や宿泊施設を提供しました。生瀬の人びとは「馬借村」を称し、運送業が生活を支える糧となりました。明治時代以降、鉄道の開設により地域の様相は一変しましたが、道の町・生瀬の歴史は、伝承・古文書・まち並みなどの中に、現在も色濃く残っています。</p>										
②保存・活用の課題										
<p>宿駅及び生瀬地域の文化財についての周知が必要です。 生瀬を訪れるための案内が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>街道関連の文化財、特に宿駅生瀬に関する資料について保存・活用を推進します。</p>										
④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	期間以降
郷土資料館特別展・関連事業	3-4									
現地見学会等の実施	3-1									
案内マップ等の作成	3-2									
実施主体	民間団体、専門機関、行政									
⑤構成する文化財										
<p>建造物 : 生瀬地域の民家とまち並み／石造五輪塔ほか浄橋寺の石造物〔市指定〕            美術工芸品 : 慶長十年摂津国絵図〔県・市指定〕／木造阿彌陀如来及両脇侍像〔国重文〕(浄橋寺)／            銅鐘〔国重文〕(浄橋寺)／善慧上人伝絵〔県指定〕(浄橋寺)／浄橋寺古瓦〔市指定〕／            浄橋寺文書〔市指定〕／駄賃札(浄橋寺)／石造露盤〔市指定〕(浄橋寺)／摂津名所図会            記念物 : 浄橋寺／西国街道、中国街道、有馬街道、大阪街道／福知山線跡</p>										



図 57 にしのみやの道 宿駅生瀬 関係箇所

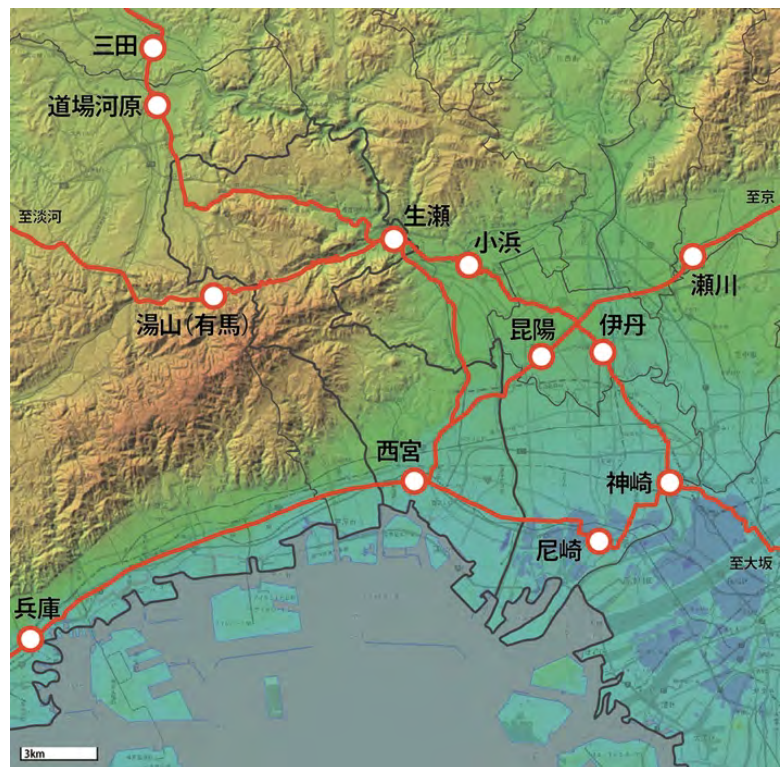


図 58 西宮周辺の街道と主な宿駅

### (3) 西宮の近代建築と文教住宅都市

①概要										
<p>明治7年(1874)大阪神戸間鉄道、明治38年(1905)阪神電鉄、大正9年(1920)阪急電鉄神戸線が当地方を東西に貫き、西宮や今津といった町のほか、周囲に広がる農村地帯も大きく変貌を遂げました。特に大都市大阪近郊の「郊外」として認識され、産業の発達により新たに形成された富裕層に対して「健康」をキーワードに郊外型の余暇＝「郊外生活」を提供することが盛んになり、娯楽の提供からやがて優良住宅地の提供の場となっていきました。</p> <p>そこで育まれた文化は、教育、交通、住居などでも新しい様式を積極的に取り入れつつ地域の特徴・良さが共生する「西宮らしさ」の基盤となり、西宮市が目指すまちづくり「文教住宅都市」の根幹につながっています。市内には明治の旧辰馬喜十郎住宅や松山大学温山記念館、旧山本家住宅等の住宅建築、W. M. ヴォーリズによる神戸女学院大学や関西学院大学などの学校建築、武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル)や武庫大橋等、時代を彩る多数の近代建築が周辺の良好な景観と共に受け継がれています。</p> <p>上ヶ原地区は昭和33年(1958)、全国で2箇所目となる文教地区指定された所で、さらに本市では昭和38年(1963)に「文教住宅都市宣言」を行い、現在の文教住宅都市を基調としたまちづくりにつながっています。</p>										
②保存・活用の課題										
<p>指定等文化財の保存修理が必要です。</p> <p>未指定文化財について、指定等の保護に向けた取組みが必要です。</p> <p>これまでの調査で把握された文化財の現況確認が必要です。</p> <p>市内の近代建築について普及啓発が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>現在の西宮のまちづくりにつながる近代建築(歴史的建造物)の保存を進めます。</p> <p>市内の近代建築の公開や普及を推進します。</p>										
④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計画以降
重要文化財神戸女学院保存修理	2-3									
旧辰馬喜十郎住宅詳細調査	1-3									
旧辰馬喜十郎住宅保存修理	2-3									継続
市内近代建築の普及	3-1~3									継続
指定等の保護に向けた取組み	2-4									継続
既調査で把握された歴史的建造物の現況把握調査	1-1									
実施主体	市民等、民間団体、専門機関、行政									
⑤構成する文化財										
<p>明治：旧辰馬喜十郎住宅 [県・市指定] / 今津小学校六角堂</p> <p>大正：甲子園球場</p> <p>昭和：神戸女学院大学 [国重文] / 関西学院大学時計台(旧図書館) [国登録] / 武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル) [国登録] / 松山大学温山記念館(旧新田長次郎邸) [国登録] / 旧山本家住宅 [国登録] / カトリック夙川教会 / 旧多間ビル / 武庫川女子大学附属中学・高等学校芸術館(元鳴尾競馬場建物) / 濱甲子園倶楽部会館 / 武庫大橋 [土木学会選奨土木遺産]</p> <p>交通：JR 東海道線 / 阪神電鉄 / 阪急電鉄</p>										





図 59 西宮の近代建築と文教住宅都市関係箇所図

#### (4) 「甲子園」は枝川、申川から生まれた

①概要										
<p>現在、本市東端、武庫川をはさんで尼崎市と境を接している鳴尾は、西宮市に合併される昭和26年(1951)まで武庫郡鳴尾村で、武庫川と旧枝川・申川にはさまれた地域を指します。</p> <p>明治38年(1905)武庫郡鳴尾村の辰馬半右衛門が、武庫川右岸沿い1.5haに遊園地・百花園をひらき、名物・鳴尾のいちごを紹介しました。鳴尾における郊外生活文化の嚆矢になります。その後、大正15年(1926)、阪神電鉄は百花園と堤防にはさまれた武庫川河川敷に武庫川遊園を開設しました。明治40年(1907)、関西競馬倶楽部、鳴尾速歩競馬場が設立され、同年、鳴尾村本郷西浜に関西競馬場競馬倶楽部競馬場が竣工しました。翌年、鳴尾村本郷東浜に鳴尾速歩競馬会競馬場が建設されましたが、まもなく閉鎖され、大正3年(1914)にはゴルフ場となりました。関西競馬倶楽部競馬場は、明治44年以降、曲芸飛行などのアトラクション会場として利用され、大正5年(1916)からは阪神電鉄が場内に鳴尾運動場を経営して、第3回から第9回までの全国中等学校優勝野球大会などが開催されました。</p> <p>明治43年(1910)、関西競馬倶楽部と鳴尾速歩競馬会は合同して阪神競馬倶楽部となり、有志による競馬や商品券競馬が開催されました。昭和12年、関西競馬倶楽部競馬場は、日本競馬会阪神競馬場と改称し、競馬開催を続けましたが、戦時下の昭和18年、海軍に引き渡され、鳴尾の競馬は姿を消しました。</p> <p>鳴尾の郊外住宅地としての開発は、明治43年、阪神電鉄が鳴尾村西畑(現甲子園駅付近)に文化住宅70戸を建設したことにはじまり、やがて甲子園地域全体へと発展していきます。</p> <p>甲子園は、枝川・申川から生まれました。武庫川の治水は兵庫県にとって懸案事業で、大正期に入る頃から、治水対策として枝川・申川を廃川とし、廃川敷地の売却によって治水工事の資金調達と利得金を阪神国道(国道2号)改修工事に充当する計画が提出されました。その結果、武庫川改修によって得られた土地は、大正12年(1923)、阪神電鉄に売却され、その後の開発により、阪神間では初めてのスポーツ施設群を開発の核としたことなどにより、「甲子園」はスポーツセンターとして、また郊外住宅地として名声を高めていきました。</p>										
②保存・活用の課題										
<p>甲子園地域の文化財の現況把握調査が必要です。</p> <p>甲子園の成立の歴史についての普及啓発が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>甲子園地域の近代化の歩みを今に伝える文化財について保存を進めます。</p> <p>甲子園の成立についての周知を進めます。</p>										
④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計画以降
文化財の現況把握調査	1-1, 1-4									
甲子園周辺マップ等の作成	3-2									
甲子園関連の展示	3-4									
実施主体	民間団体、専門機関、行政									
⑤構成する文化財										
<p>建造物：武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル) [国登録] / 阪神甲子園球場 / 濱甲子園倶楽部会館 / 武庫川女子大学附属中学・高等学校芸術館(元鳴尾競馬場建物) / 武庫大橋 [土木学会推奨土木遺産]</p> <p>歴史資料：鳴尾・甲子園関係ポスター</p> <p>記念物：武庫川 / 枝川・申川跡</p> <p>交通：阪神国道(国道2号) / 阪神電鉄 / JR神戸線</p>										

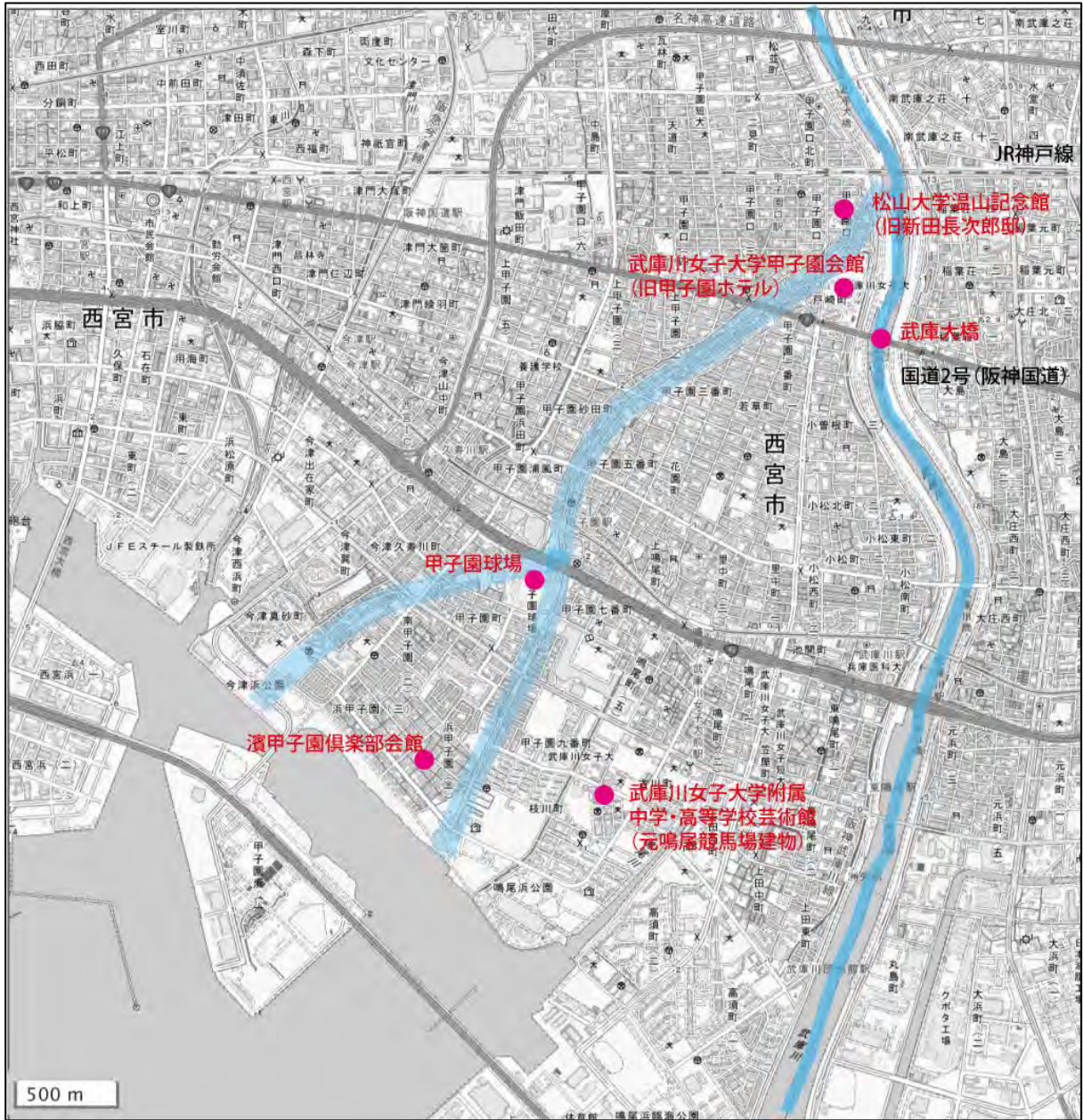


図 60 甲子園の成立関係箇所

## (5) 名塩御坊と名塩紙

①概要										
<p>浄土真宗第8世蓮如が創建した教行寺の眼下、谷合を流れる名塩川沿いに広がる紙すきの里、名塩。江戸時代には「名塩千軒」と称されるほど一大産業であった製紙の技術は、今なおこの地域の伝統と誇りとして守り伝えられています。春3月、紙祖東山弥右衛門の慰霊祭が執り行われ、越前から名塩に製紙の技術をもたらした徳を称えます。</p> <p>箔打紙の原紙や文化財の修復に欠かせない名塩の紙は、主原料の雁皮に細かく砕いた地元産の岩石を加えることにより、日焼けや虫食いのない丈夫な紙として、江戸時代には藩札の原紙として使用されました。（公財）黒川古文化研究所所蔵の「名塩産藩札文書」がそのことを物語ります。</p> <p>名塩のニュータウンと旧村落を結ぶ国道176号。その道沿いに教行寺までの丁数を刻む道標が建ち、「名塩御坊」と称される蓮如の日跡へ誘います。村民たちが蓮如を招聘し結ばれた草庵から始まったとされる教行寺の住持は、蓮如の子蓮芸の子孫が代々務め、地元の領主有馬氏からの厚い帰依を受け名塩地域の中心的存在となりました。</p> <p>一方、教行寺と相対する北面に位置する名塩八幡神社の年中行事に、名塩地域の組織力・団結力が表われます。正月行事「とんど」の竹は高さ6メートルにも及び、秋祭りの「だんじり」は山間の狭い道を勇壮に曳行します。</p> <p>製紙業による経済的な発展は、江戸時代後期の名塩蘭学塾の開設として結実します。名塩徳川百記の娘八重は蘭学医緒方洪庵に嫁ぎ、洪庵門下である伊藤貞蔵により名塩蘭学塾が設けられました。このことは、のちにアドレナリンの製造開発に尽力した上中啓三を生む素地ともなりました。紙すきと医学のまち名塩は、伝統と文化を継承しています。</p>										
②保存・活用の課題										
<p>名塩紙についての普及啓発が必要です。</p> <p>次世代へつなげるための取組が必要です。</p>										
③保存・活用の方針										
<p>無形文化財名塩紙の保存・活用を推進します。</p>										
④措置										
項目	第7章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計画以降
名塩和紙学習館和紙実習	4-1									継続
名塩和紙学習館常設展示	3-4									継続
名塩紙に関する情報発信	3-2									継続
実施主体	民間団体、専門機関、行政									
⑤構成する文化財										
<p>歴史資料：名塩産藩札文書と名塩の私札〔市指定〕（黒川古文化研究所）／教行寺道標／緒方八重胸像</p> <p>無形文化財：名塩雁皮紙〔国重文〕／名塩紙技術〔県指定〕</p> <p>無形民俗：名塩八幡神社のトンド行事／名塩八幡神社秋の例大祭とだんじり</p> <p>記念物：教行寺／東山弥右衛門墓碑／名塩八幡神社／蘭学塾跡石碑／上中啓三顕彰碑</p> <p>博物館：西宮市立郷土資料館・同分館名塩和紙学習館／（公財）黒川古文化研究所</p>										

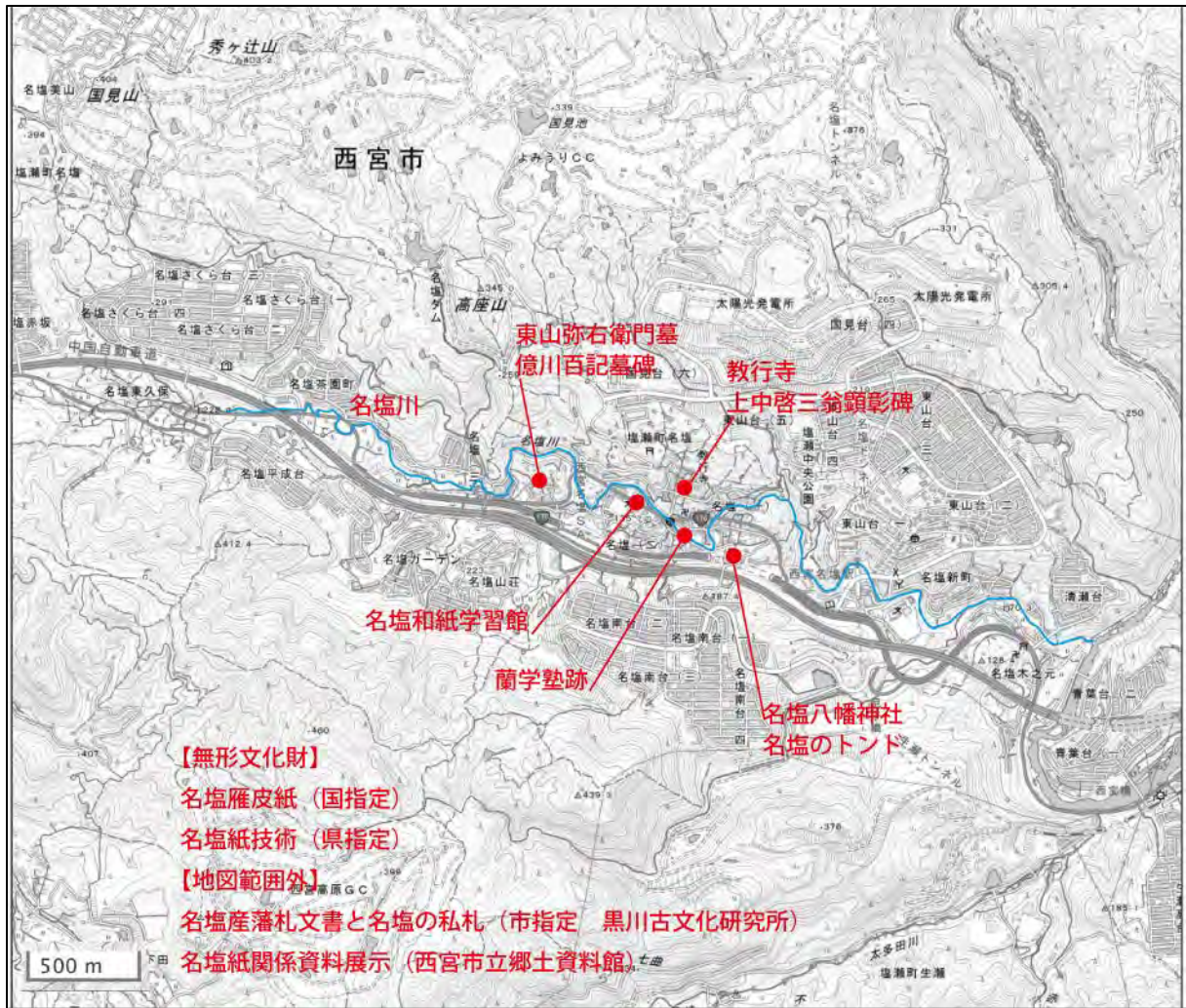


図 61 名塩御坊と名塩紙 関係箇所



図 62 教行寺太鼓楼



図 63 名塩産藩札文書と名塩の私札

## (6) 古墳—西宮の古代前史を知る

### ①概要

西宮市内には、多数の古墳の所在が知られます。それらはいずれも古墳時代後期（紀元後6世紀～7世紀）の「横穴式石室墳」という型式の、丸い墳丘の古墳「円墳」ですが、それよりも古い時代の古墳で「前方後円形」という墳丘の形をした古墳が、西宮市内にもあったことがわかっています。本市内にあった前方後円墳は、津門稲荷山古墳、津門大塚山古墳、上ヶ原車塚古墳の3基で、いずれも大正の土木工事による影響をうけて墳丘が削平または消滅したことが、紅野芳雄「考古小録」や吉井良秀『武庫の川千鳥』（大正10年）からわかっています。

津門稲荷山古墳は、南に前方部を向けた南北60mくらいの大サイズの古墳であったということが、「考古小録」に記載されていますが、その後の市街地開発のなかで古墳の形と正確な位置はわからなくなっていました。後年の発掘調査により5世紀に属する円筒埴輪が出土し、津門稲荷山古墳のものと考えられています。津門稲荷山古墳は本市内で築造された最も古い時期の古墳であると考えられています。

津門稲荷山古墳が築造されたと思われる時期の遺跡には高畑町遺跡があります。高畑町遺跡では発掘調査で大量の農具や紡織具などの木製品が見つかりました。このことから、農業経営の拠点が遺跡群の北（西宮北口付近）に、同じ年代の古墳が遺跡群の南、津門の海浜部にあったと考えることができます。

津門大塚山古墳は発掘調査が行われていないため、その年代や規模は不明ですが、前方後円墳であることと、横穴式石室を内蔵していたと思われることから、6世紀の古墳である可能性が考えられます。津門の海浜部に築造されたこれらの両古墳は、古墳時代の西宮地方の首長墓の系譜にある古墳としてとらえることができそうです。

上ヶ原車塚古墳は、巨石で構築された石室を有し、南面する前方後円墳が大正5年に消滅したこと、巨石で構築された高さ2.4m～2.7mの横穴式石室を内蔵する前方後円墳であったことが吉井良秀『武庫の川千鳥』の記述からわかっています。石室が巨石を用いていることを重視すると、先の津門大塚山古墳と同時期かそれ以降の時期の築造と考えられていて、本市内で最後の前方後円墳と考えられています。

6世紀後半には、上ヶ原台地の南端、後の山陽道を眼前に見る低い丘陵先端の頂部に具足塚古墳が単独で築造されます。具足塚古墳は横穴式石室を内蔵する円墳で、石室からは、馬具や武器などの鉄製品、須恵器といった副葬品が大量に見つかりました。6世紀後半期の当地方の古墳の中では最上位の規模と副葬品の内容をもつ古墳で、具足塚古墳の被葬者は、背後の上ヶ原台地とそれに続く丘陵地を背景に南面の沖積地である通称武庫平野を掌握した、地方首長墓の系譜に連なる人の墓であると考えられます。

6世紀末から7世紀前半期の横穴式石室古墳は、東から仁川五ヶ山古墳群第2号墳、関西学院構内古墳、神園古墳群第1号墳、高塚古墳群第1号墳があります。いずれも具足塚古墳のような武庫平野全体を掌握する地方首長墓ではなく、より狭い範囲・小さな集団を背景とした代表者の墓と考えられます。ここに津門稲荷山古墳から150年以上続いた地方首長墓の系譜は途絶えます。6世紀末から7世紀前半にかけての時期は当地方の支配のありかたの転換期ととらえることができます。

本市の北部、旧有馬郡に属する古墳としては山口町の青石古墳があります。青石古墳は、7世紀後半の古墳で、長さ7mあまりの横穴式石室を内蔵する古墳です。北の三田盆地に向けて開いている有馬川中流域の神戸市道場町所在の同時期の古墳や集落遺跡などと関連する古墳の一つで、有馬郡三田盆地南辺の7世紀の地域史を考えていく上で重要です。

### ②保存・活用の課題

史跡指定地の整備が必要です。

出土木製品等の保存処理及び詳細調査による評価が必要です。

市内所在の古墳等に関する普及啓発が必要です。

### ③保存・活用の方針

市内の古墳及び関連遺跡についての調査を実施し、史跡整備等を進めます

④措置										
項目	第5章との関係	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	計画以降
具足塚古墳整備事業（関係土地取得）	3-6									
具足塚古墳整備事業（仮整備）	3-6									実施時期調整
高畑町遺跡出土木製品等保存処理及び調査	1-3, 2-3									
郷土資料館特別展示（高畑町遺跡関連）	3-4									
実施主体	行政、民間団体、専門機関									
⑤構成する文化財										
記念物	五ヶ山古墳群第2号墳〔市指定〕／関西学院構内古墳〔市指定〕／青石古墳〔市指定〕／老松古墳〔市指定〕／具足塚古墳〔市指定〕／上ヶ原浄水場古墳／津門稲荷山古墳／大塚山古墳／津門稲荷町遺跡									
考古資料	考古小録及び関係品〔市指定〕／具足塚古墳出土品〔市指定〕／高畑町遺跡出土木製品附奈良、平安時代大型井戸出土遺物〔市指定〕									
関連遺跡	高畑町遺跡、北口町遺跡、高松町遺跡、高塚1号墳（消滅）									
博物館	西宮市立郷土資料館									



図 64 市内古墳位置図